

令和5年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価

外部評価書

揖斐川町教育委員会外部評価委員会

外部評価書

外部評価の総括

1 経過

令和5年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価にあたっては、事務局（学校教育課・社会教育課）が主管する全194事業（学校教育課104事業、社会教育課90事業）を対象に、実施状況を精査し事業に対する成果と課題を提言した。

外部評価を取りまとめるまでの手順は以下のとおりである。

- (1) 事務局は担当する全事業について「教育委員会事務事業点検評価調書」を作成し、事業点検を行った。
- (2) 事務局は全事業のうち「令和5年度揖斐川町教育の方針と重点」を踏まえ、主要事業について実施した事業点検の結果を「自己評価書」に取りまとめた。
- (3) 揖斐川町教育委員会から委嘱を受けた外部評価委員3名は、事務局から提示された「教育委員会事務事業点検評価調書」並びに「自己評価書」に基づいて実施状況を精査した。
- (4) 外部評価委員会（2回）を開催、事務局からの意見聴取を経て「外部評価書」を取りまとめ提出した。

2 総論

- 成果の指標を具体的な数値等で定めたうえで、その客観的なデータと事業担当者としての概観とを合わせて適切な評価がなされ、成果と課題を明らかにして次年度の事業と予算に生かすサイクルが定着している。評価を公開し、広く町民等に事業内容と実情を理解してもらったり、事業の啓発に繋いだりすることを今後も一層推進することを期待する。
- 年度当初に設定した「揖斐川町教育の方針と重点」の重点に掲げた「全教職員が協力して活力ある学校経営をする」「主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける」「たくましく生き抜いていくための基盤となる学力の育成を図る」「『生涯教育』『家庭教育』等各種社会教育活動の推進」に基づいて事業が実施され、公平性・透明性・公開性を重視し、児童生徒・保護者・住民の立場に立って取り組まれている。町の現状や社会情勢が刻々と変化する中、それらも見通して長期の見通しをもって各事業が推進されることを期待する。
- 児童生徒の実態、揖斐川町の地域特性、社会状況の変化、それぞれを踏まえたうえで総合的に教育が充実するよう事業の質を高め、各学校で特色ある教育活動として具体化されている。特に急速な技術の進化による社会のデジタル化に対応し、タブレット端末をはじめとするICT機器の効果的な活用も着実に進んでいる。今後も引き続き、教育的各諸課題に目を向けながら、児童生徒の実態も踏まえた総合的な視野での教育推進を期待する。
- 全国的に不登校児童生徒の増加が指摘されている。揖斐川町においても、そうした状況にある児童生徒に対する事業・取組を一層工夫していく必要がある。
- 町民の生涯学習のニーズに対応するために様々な事業を行い、成果を上げている。今後は、時代とともに変化する地域事情や年齢構成に配慮しながら、地域交流センター、公民館の役割をより明らかにし、活動を一層工夫していく必要がある。
- 「いびがわマラソン」をはじめとしたスポーツ振興の事業を、幼児からお年寄りまで幅広い年齢層のニーズに応え、種目や内容を工夫して行っている。特色ある大会として多くのランナーから高い評価を得ている「いびがわマラソン」の価値を維持・向上させていくために、引き続き大会内容や取組の工夫を期待する。

区分	重点・力点	外部評価委員会による評価
学校教育	<p>全教職員が協力して活力ある学校経営をする。</p>	<p>2年目となる事業「地域学び塾」は、地域住民の声からもかなり定着してきている様子が伺える。中学生の地域での居場所づくりとしても、通塾ができない生徒の学習保障の場としても、高い成果を得られている。今後は、教職をめざす大学生など講師の幅をさらに広げ、将来の揖斐川町の学校教育にも寄与する事業にも発展していくことを期待する。</p> <p>学校施設・設備の整備については、GIGA スクール構想の推進により、タブレット端末等のICT機器が手厚く整備されている。機器の維持管理、更新等もあり巨額の費用を要する主要事業となっている。児童生徒には自宅に持ち帰って使用できるようにするなど、普段使いをさらに充実させ、主体的に使用する態度の育成を図りたい。他各学校施設については、使用年数も長くなってきており、今後一層維持管理が困難になることが予想される。国の事業、予算措置などの動向について情報を得て、補助等を活用しつつ、少子化を見据えたうえで町内学校の編成についても視野に入れ、長期的・計画的に進められたい。</p> <p>給食費、修学旅行費等の各補助について、揖斐川町は手厚く、子育て世代への経済的支援として大変効果がある。今後も継続実施が望ましい。</p>
	<p>一人一人の夢の実現に向けたたくましく生き抜いていくための基盤となる学力の育成を図る。</p>	<p>児童生徒の県外・海外派遣事業が本格的に再開（コロナ禍から）され、将来の揖斐川町を担う児童生徒たちの育ちに寄与している。引き続き、児童生徒の社会性・人間性を育む事業として大事にしていきたい。</p> <p>特色ある取組を人的に支援する事業については、少人数指導助手、教科専門指導員、スクール相談員等、揖斐川町では町からの学校支援が手厚い。学校現場の常態的な人員不足が全国的に問題化する中、非常に有用な事業であり、各学校のニーズに適切に対応できるよう、学校への人的支援は今後も必須である。一方、増加する不登校児童生徒への対応について、人的支援と併せて、ICT機器をコミュニケーションツールとして活用していく取組なども、将来的には検討していけるとよい。</p> <p>特別支援教育の支援に係る、就学奨励費、支援員の配置などの各事業については、障がいの内容や、児童生徒の実態も多様化する昨今において、一人一人の様態に合わせた適切な支援を個別に講じていくために、費用面、人的支援等あらゆる方面からの支援が今後も必要である。今後も特別支援教育に対するニーズはさらに高まっていくことが予想され、事業の一層の充実を図られたい。</p> <p>その他、芸術鑑賞や野外活動など、さまざまな面から総合的に学校教育の充実を図る事業が実施されており、今後も随時内容を精査をしながら着実に実施していく必要がある。</p>
	<p>自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける</p>	<p>連携型中高一貫教育推進事業は、町内3中学校がすべて連携校となり、校種を超えて充実した取組が実施されている。事業による中学生への教育効果についてさらに明らかにし、事業成果と課題を踏まえたうえで取組内容の一層の充実を図られたい。</p> <p>教員の資質向上は恒常的に取り組むべきことであり、今後も継続実施の必要がある。一方で教員の過重労働が問題となっている昨今では、働き方改革の推進も学校教育現場の重要課題である。教員として取り組むべきこと、力を入れるべきことと、削減すべき業務とを精査したうえで、教育の質の向上に引き続き取り組まれたい。</p>

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育(生涯学習・文化)	生涯学習の推進	住民主体の地区公民館活動を通して、自治意識の高揚と連帯感の醸成を図ることができている。コロナの影響により利用者数は大幅に落ち込んでいたが、昨年度から自粛されていた活動が再開され、地域によって軽スポーツ大会、盆踊り、地区運動会、公民館祭りなどの活動が行われている。「地域の絆」を深める場所として活かせる環境づくりを進めながら、地域住民が主体となって、持続可能な事業展開に努めていくとよい。
	家庭教育の推進	家庭教育は、これからの未来を支える子どもたちに重要な役割を果たすもの。地区公民館などが行う家庭教育の取組に、引き続き支援を望みたい。
	読書活動の推進	幼少期のうちに読書の楽しさを伝え、家庭での親の読み聞かせにより、子どもの読書習慣を育てることは、心の醸成に寄与する大切なことであると考え。子どもの読書環境を整え、心豊かな成長を促進するためにも、引き続き子ども読書推進事業を実施されたい。
	青少年育成活動の推進	青少年の健全育成については、青少年育成町民会議を中心に、家庭・学校・地域社会が深く関わり合いながら、「街頭啓発」や「わが家のあったか約束」などの取組が行われている。青少年育成町民会議総会と大会では小学生、中学生の発表が行われるなど、児童生徒の活躍の場が提供されている。町内の子ども的人数は年々減少している現状であるが、今後も関係機関・団体と連携を図りながら、地域の実情に応じた活動の取組、健全な青少年の育成を推進されたい。
	人権教育の推進	社会人権同和教育事業は、人権意識の向上や同和問題の正しい認識を図り、思いやりのある社会を形成するため、啓発活動が実施されている。今後も人権教育事業を推進するとともに、関係機関と連携しながら、広報活動も展開するなど、研修等参加者の裾野を広げ、広く町民への啓発を図られたい。
	住民の文化活動の振興	町内の文化活動を支援することにより、「豊かな人間性と郷土愛を育むまちづくり」に寄与している。町文化協会を中心とした地域住民による自主的な文化活動の輪が更に広がることを目指し、引き続き支援を望みたい。 「アートいびがわ」など町民参加型の文化活動を、今後も引き続き開催し、文化芸術振興を図られたい。
	文化財や伝統芸能の保存・伝承及び活用の推進	子ども歌舞伎など、無形文化財の保存・伝承は、教育資源・生活資源・観光資源として大変重要である。しかし、人口減少、少子高齢化が進むにつれ、後継者不足は喫緊の課題である。町としては、保存会等の団体への支援を継続し、発表の場の提供やPR活動、学術的な調査、後世に伝えていくための人材育成支援等を推進していくとよい。
	親しまれる社会教育文化施設の創意ある運営の推進	地域交流センターはなももは、生涯学習、文化芸術振興、観光交流の拠点として、より多くの方に利用していただけるよう、創意工夫して運営をしていただきたい。 いびがわ図書館では、施設内の木育広場に「カプラ」を常設している。今後も木を好きになってもらい、自然との関わり方を積極的に考えられる豊かな心を養う取り組みを継続していくとよい。

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育(スポーツ)	地域スポーツの推進	<p>スポーツ推進委員の活動は、地域スポーツ活動の推進役として重要であり、推進委員会の活動や地区公民館での活動が、生涯スポーツの推進に寄与するものと考えられる。今後も推進委員会は、関係機関と協調して活動されることを期待する。</p> <p>町体育協会は、生涯スポーツ活動における中核的組織であるが、少子高齢化のため、構成員、団体の減少が加速している。今後も町内のスポーツ振興推進のため、引き続き支援は必要である。</p> <p>町民がスポーツに親しみ、健康で幸せな生活が営めるよう、スポーツ推進審議会、関係機関・団体が連携してスポーツ環境づくりを推進していくことを期待する。</p> <p>中学校部活動の地域移行は、学校、生徒にとって大きな課題であり、円滑な移行を行ってほしい。</p>
	スポーツ施設や環境の整備充実	<p>揖斐川健康広場トレーニングルームは、体力づくり、健康増進、生活習慣病の予防など、生活の充実を求める利用者により安定的な施設利用となっており、老朽化した機器の計画的な更新も含めて持続可能な維持を希望する。また、施設利用者を対象とした各種教室プログラムにおいても、住民ニーズの把握に努め、魅力ある事業展開を期待する。</p> <p>新設されたプール施設利用補助事業は、廃止された町民プールの代用として町民の健康増進を図るためのもので、利用者増加に向けて周知を行い、事業継続を図ってほしい。</p>
	スポーツによる地域振興	<p>1988年から開催しているいびがわマラソンは、昨年度に引き続き、ハーフマラソンのみの大会として開催された。フルマラソンコースの一部が通行止となっていることから、ハーフマラソンのみの開催としているが、ランナーからはフルマラソンの復活を望む声も多い。町の魅力を発信し、地域振興やスポーツ振興を推進していくことが大切で、これは、町の一大イベントのいびがわマラソンが担う役割でもあり、関係機関との協議も含めて、フルマラソンの復活を検討してほしい。</p>